

2024年3月29日(金) 小集会

A会場(橘)	B会場(萩)	C会場(白檀1)	D会場(白檀2)	E会場(小会議室1)	F会場(小会議室2)	G会場(小会議室8)
小集会W01 遺伝子機能アノテーション: 昆虫データ解析に今必要なこと 世話人: 横井翔	小集会W02 実験室で進化する昆虫-実験進化/人為選抜を議論する- 世話人: 高田悠太・上野尚久・松村健太郎	小集会W03 タバコカシカメ利用を考える-先導導入事例から考える秘訣と課題- 世話人: 安部順一朗・中野亮平	小集会W04 「緑尋機妙・昆虫生態学の牽引者から学ぶ」(3)大崎直太さんと愉快的仲間達 世話人: 安田弘法・金子修治	小集会W05 第32回日本ICIPE協会研究報告会—アフリカ昆虫学のタバコカシカメ利用- 世話人: 足達太郎	小集会W06 NBRPカイコにおける新規リソースの利活用—単為発生系統と倍数体系統 世話人: 藤井告	小集会W07 第3回昆虫食マングラ 世話人: 鈴木丈詞・片岡孝介
W01-01○横井 翔 1(1.農研機構・生物研) 昆虫遺伝子機能アノテーションをどうすべきか?	W02-01○古賀 隆一 1(1.産総研・生物プロセス) 実験室での進化により昆虫と自由生活性細菌との相利共生進化の入口を見つける	W03-01○中野 亮平 1. 齊藤 千温2. 戸田 佳香3. 鴨川 悠太4. 寺本 浩長4(1.静岡農林技研, 2.静岡西部農林, 3.静岡中遠農林, 4.JA遠州夢咲) 静岡県の施設大玉トマトにおけるタバコカシカメ利用を基幹としたIPM:これまでの歩みと今後の課題	W04-01○安田 弘法 1. 金子 修治2(1.放送大学, 2.大阪環農研) 最後の「緑尋機妙・昆虫生態学の牽引者から学ぶ」(3)大崎 直太さんと愉快的仲間達	W05-01○相内 大吾 1(1.帯畜大・GAMRC) アフリカ害虫の微生物防除	W06-01○藤井 告 1. 藤本 章見1(1.九州大学大学院農学研究院) 新規カイコバイオリソースの収集・保存・提供—単為発生系統	W07-01○田崎 英祐 1(1.新潟大・理) 無視できない虫の価値:シロアリの機能性研究とその展望
W01-02○梶 浩平1, 2, 田村 啓太1, 坊農 秀雅1, 2(1.広大・ゲノム編集イノベーションセンター, 2.広大・統合生命) PacBio HiFiリードシーケンスによるキンウバトピコバチのゲノム解読と機能アノテーション	W02-02○宮竹 貴久 1(1.岡山大学) 人為選抜実験:ミバエと甲虫での研究事例紹介	W03-02○上村 香菜子1, 伊丹 春衣1, 清水 信孝1(1.福岡県農業総合試験場) 福岡県の促成トマト栽培における土着タバコカシカメを利用したIPM	W04-02○大森 正揚 1(1.京都先端科学大学) “剃刀を持つ鉄人”大崎先生との四半世紀	W05-02○二見 恭子 1, Peter Lutial2, George Sonye3, Cassian Mwatele4, Sammy Njenga4, 皆川 昇1(1.長大・熱研, 2.CRTMCD, 3.ASK, 4.KEMRI) 西ケニアにおけるヤブカ属(カ科)幼虫発生源調査	W06-02○藤本 章見 1, 藤井 告1(1.九大院・農) NBRPカイコの新規分譲開始4倍体系統のご紹介	W07-02○三浦 みちこ1, 齋藤 健生1, 佐伯 真二郎1, 伊藤 あずき1(1.TAKEO株式会社) 研究者が知らない昆虫食の今
W01-03○坊農 秀雅 1(1.広大・統合生命科学) 遺伝子機能アノテーションワークフロー Fanflow4Insects		W03-03○田中 彩友美1, 北村 登史雄2, 安達 修平1, 富高 保弘1, 安部 順一朗1, 水谷 信夫1(1.農研機構・植防研, 2.農研機構・西日本農研) 熊本県の促成トマト栽培におけるタバコカシカメ利用体系	W04-03○坂田 宏志 () 行政施策と経営を導く昆虫生態学	W05-03○足達 太郎 1(1.東京農大・国際農業開発) サハラ以南アフリカにおけるツマジロクサヨトウの定着状況とトウモロコシ生産への影響	W06-03○佐原 健 1(1.岩手大・農) 低温処理により誘起したカイコ4倍体と後代3倍体の生殖と性染色体について	W07-03○鈴木 丈詞 1(1.農工大・BASE) タイとカンボジアにおける昆虫食と昆虫養殖
		W03-04○佐藤 信輔 1, 高野 友二郎1, 小河原 孝司1(1.茨城県農業総合センター園芸研究所) 茨城県の促成トマト栽培におけるタバコカシカメの導入事例	W04-04○大崎 直太 1(1.大津市) 徒然なるがままに		W06-04○竹村 洋子 1, 持田 裕司1(1.蚕糸科学技術研究所) 4倍体単為発生と受精補助剤としての3倍体精子の活用	

2024年3月30日(金) 小集会

A会場(橘)	B会場(萩)	C会場(白檀1)	D会場(白檀2)	E会場(小会議室1)	F会場(小会議室2)	G会場(小会議室8)
小集会W08 ゲノム編集昆虫の利 用を目指して 世話人: 神村学	小集会W09 モンシロチョウ属の 種間関係と食草との 関係に関する研究の 現状: 多様な研究手 法からのアプローチ 世話人: 今野浩太郎	小集会W10 DNA配列データ解析 を始めてみようII 世話人: 横井翔	小集会W11 生物振動学: 基質振 動と非接触振動によ るコナジラミ類の行 動制御と防除 世話人: 高梨琢磨・ 立田晴記・関根崇行	小集会W12 昆虫免疫夜話VII 世話人: 芳山三喜 雄・古川誠一	小集会W13 第25回昆虫の季節 適応談話会 世話人: 田中一裕・ 後藤慎介	小集会W14 応用昆虫学の新しい チャレンジ: 腐食性昆 虫が支える未来の資 源循環社会 世話人: 霜田政美・ 劉家銘
W08-01○神村 学 1(1.農研機構) はじめに	W09-01○今野 浩太 郎1(1.農研機構 生 物機能利用研究部 門) モンシロチョウの極 めて大きな比成長率 (成長速度)が決定 づける世界的大害虫 としての性質とスジ グロシロチョウとの競 合関係および食草決 定	W10-01○和泉 隆誠 1、平山 カ1、富田 秀一郎1、飯塚 哲也 1、桑崎 正剛1、上樂 明也1、坪田 拓也1、 横井 翔1、山本 公子 1、瀬筒 秀樹1(1.国 立研究開発法人 農 業・食品産業技術総 合研究機構) QTL解析によるカイ コのフラボノイド吸収 を仲介するグリコシ ダーゼの同定	W11-01○柳澤 隆平 1、上原 祥太郎1、諏 訪 竜一2、高梨 琢磨 3、立田 晴記1(1.九 州大学、2.琉球大学、 3.森林総研) 基質振動によるタバ ココナジラミ防除の 最前線: トマトの安定 栽培技術の実用化 に向けて	W12-01○鈴木 亮彦 1(1.国立環境研究 所・生物多様性領 域) ミツバチにおける腸 内細菌の免疫機能 への関与	W13-01○藤近 敬子 1、野澤 昌文1、2、高 橋 文1、2(1.都立大・ 理、2.都立大・生命情 報セ) ノハラカオジロシヨウ ジョウバエ日本集団 の生殖休眠の地理 的変異	W14-01○佐藤 智1、 2、Yudistira Dwi Harya2、Sandi Yongki Umam1、 Wirabumi Bayu Anggita 1、Wikandari Pinasindi1(1.山形大・ 農、2.岩手連大・農) 山形版アメリカミズア ブを取り巻く状況
W08-02○松原 秀樹 1(1.はつはな果蜂園) 養蜂の実際と課題	W09-02○岡村 悠 1(1.東大院・理) モンシロチョウ属シロ チョウにおける食草 適応に関わる遺伝子 の進化とその発現調 節	W10-02○横井 翔 1(1.農研機構・生物 研) 昆虫ゲノムデータ解 析を始める	W11-02○富原 工弥 1、小野寺 隆一2、高 梨 琢磨3(1.兵庫県 農技総セ、2.東北特 殊鋼、3.森林総研) 振動によるコナジラミ 類の密度抑制機構 の解明と実用化に向 けた取組み	W12-02○奥村 雄暉 1、澤 友美1、田中 利治2、中松 豊1(1. 皇學館大学教育学 部、2.名古屋大学) カリヤコマユバチ幼 虫の表皮を覆う漿膜 細胞とテラトサイトに よる寄主の包圍化作 用の抑制について	W13-02○清水 悠太 1(1.大阪市大院・理) マダラスズの母性休 眠誘導の内分泌機 構	W14-02○大原 裕也 1(1.静県大・食品栄 養) アメリカミズアブ幼虫 が持つ長期飢餓耐 性の発見とその利用
W08-03○本間 淳1、 2、3、原口 大1(1.沖 縄県病害虫防技セ、 2.琉球産経株式会 社、3.琉大・農) 不妊虫放飼事業に おけるゲノム編集技 術利用への期待	W09-03○大崎 直太 1(1.大津市) モンシロチョウ属3種 のチョウの比較生態 学	W10-03○坊農 秀雅 1(1.広大・統合生命 科学) 昆虫のDNA配列 データ解析を始めよ う	W11-03○浦入 千宗 1、星 貴之2(1.農研 機構野菜花き研究 部門、2.ピクシーダ ストテクノロジーズ(株)) 集束超音波による非 接触振動と黄色粘着 板を用いたコナジラミ 類防除機の開発 —天敵タバコカスミカ メによる防除の補完 効果—	W12-03○澤 友美 1、奥村 雄暉1、田中 利治2、中松 豊1(1. 皇學館大学、2.名古 屋大学) 寄主免疫の異物認 識を制御するカリヤ コマユバチのC型レ クチンについて	W13-03○檜垣 守男 1(1.農研機構 植防 研) ゴマダラカミキリの生 活史の季節と気候へ の適応	W14-03○串間 充崇 1(1.株式会社ムスカ) 新しい「IT」の力で世 界を救う! イエバエを活用した 革新的システムの実 用化について
W08-04○畠山 正統 1、神村 学1(1.農研 機構・生物研) ゲノム編集を利用し た個体・系統識別 マーカーの作出						
W08-05○田部井 豊 1(1.東洋大学) ゲノム編集生物に関 する取扱いルールと 利用手続き						

2024年3月31日(土) 小集会

A会場(橋)	B会場(萩)	C会場(白樺1)	D会場(白樺2)	E会場(小会議室1)	F会場(小会議室2)	G会場(小会議室8)
<p>小集会W15 討論しよう！飛来性害虫の殺虫剤抵抗性管理 世話人：山本敦司</p>	<p>小集会W16 第4回社会性昆虫研究会：social material exchange in ants—栄養交換と栄養卵 世話人：藤岡春菜・Adam Khalife</p>	<p>小集会W17 昆虫分類若手懇談会シンポジウム「地域昆虫相解明のために研究者には何ができるのか」 世話人：鈴木信也</p>	<p>小集会W18 カイガラムシ談話会「河合省三先生を偲び、未来を語る」 世話人：上里卓己・田中宏卓・岸本圭子</p>	<p>小集会W19 ハチ目研究者の集い 世話人：岡安樹璃也・廣瀬勇輝</p>	<p>小集会W20 ミツバチ分子生物学の現在地 世話人：宇賀神篤</p>	<p>小集会W21 アリをめぐる生物種間の相互作用2024 (JIUSI共催) 世話人：上田昇平・北條 賢</p>
<p>W15-01○山本 敦司 1, 2(1.日本曹達(株), 2.殺虫剤抵抗性対策TF) 殺虫剤抵抗性管理の基本と実践サイクル：飛来性害虫にどう応用するか？</p>	<p>W16-01○Adam Khalife1, Masahiro Ogawa1, Fuminori Ito1(1.Kagawa University) Nutritional and adaptive value of worker-laid trophic eggs in ant colonies</p>	<p>W17-01○相馬 純 1(1.弘前大・白神センター) 地域から世界へ：在野研究者との協力関係が分類学と教育にもたらす貢献</p>	<p>W18-01○上里 卓己 1, 田中 宏卓2, 岸本圭子3(1.沖縄病害虫防技セ, 2.九州大・愛媛大, 3.龍谷大) 河合省三先生を偲ぶ</p>	<p>W19-01○渡辺 恭平 1(1.神奈川県立博物館) 分類学者による他分野研究者や愛好家との連携：実例と留意点</p>	<p>W20-01○宇賀神 篤 1, 2, 佐々木 哲彦 2(1.JT生命誌研究館, 2.玉川大・ミツバチ科学) フェロモンと受容体に対応づける新たなアプローチの探索—脱シラミ潰しのために—</p>	<p>W21-01○中林 ゆい 1, 大島 一正1, 2, 3(1.京都府大・院生命環境, 2.京都府大・新自然史セ, 3.京都府立植物園) アリ随伴性シジミチョウの分布拡大に伴う種間関係の変遷</p>
<p>W15-02○八瀬 順也 1(1.兵庫農技総セ) 遠くから飛んでくる害虫に殺虫剤抵抗性管理という考え方は通用するの？</p>	<p>W16-02○宮崎 智史 1, 栗原 雄太1(1.玉川大学) トビイロケアリの蟻居型コロニー創設：女王による“身を削った”子育て術</p>	<p>W17-02○星野 光之介 1(1.長岡市立科学博物館) 昆虫相解明に携わって見えてきたこと～地方博物館学芸員の立場から～</p>	<p>W18-02○田中 宏卓 1, 2(1.九大総合研究博物館, 2.愛媛大学・農) 最近のカイガラムシ分類研究の現状について</p>	<p>W19-02○藏満 司夢 1(1.筑波大学) 植物用殺菌剤による捕食寄生性昆虫の見えざる死：その普遍性と圃場での実態の検証(予報)</p>	<p>W20-02○河野 大輝 1(1.東京大院・理) ゲノム編集ミツバチの作出による成虫脳選択的に発現する遺伝子の機能解析</p>	<p>W21-02○岩井 碩慶 1, 2, 3, 河野 暢明3, 4, 古藤 日子1(1.産業技術総合研究所, 2.日本学術振興会特別研究員PD, 3.慶應義塾大学 先端生命科学研究所, 4.慶應義塾大学大学院) 一時的社会寄生種トゲアリ (Polyrhachis lamellidens) の寄生戦略</p>
<p>W15-03○清水 健 1, 根本 和俊2(1.千葉県農林水産部, 2.全農千葉県本部) 現場で取り組む飛来性害虫対策～シロイチやおオタバコを例に～</p>	<p>W16-03○下地 博之 1(1.琉球大学) アリのトイレ形成と隠れたトイレの機能</p>		<p>W18-03○田端 純1, 2, 菅原 有真1(1.農研機構, 2.筑波大連携院) カイガラムシ類のフェロモンとその利用</p>		<p>W20-03○峰 翔太郎 1, 野村 哲郎2, 横井 翔1, 木村 澄3, 畠山 正統1(1.農研機構, 2.京都産業大学, 3.プラチナバイオ) 有用形質をもつミツバチの系統樹立を目指して</p>	<p>W21-03○坂本 洋典 1(1.国環研) 昆虫写真家山口進氏が好蟻性生物研究に与えた影響</p>
			<p>W18-04○市岡 孝朗 1(1.京大院・人間・環境学) カイガラムシ-アリ共生系の生態学</p>		<p>W20-04○末次 翔太 1(1.福岡大・理) ミツバチで検出される2種のFrischella属腸内細菌の、宿主との共生能力</p>	